
第14回愛媛形成外科研修会

抄 録 集

日 時 平成 16 年 12 月 4 日 (土) 17 時～
場 所 独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター
管理棟 2 階会議室
TEL : 089-932-1111
当番世話人 愛媛県立中央病院 形成外科
小林 一夫

愛媛形成外科研修会

会 期	世 話 人	会 場	日 時	参加者
第 1 回	河村 進 (四国がんセンター形成外科)	松山成人病 センター	平成10年 7月4日	15名
第 2 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県医師会 研修所	平成10年 12月5日	17名
第 3 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	松山成人病 センター	平成11年 6月19日	20名
第 4 回	河村 進 (四国がんセンター形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成11年 11月27日	19名
第 5 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成12年 6月24日	17名
第 6 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成12年 12月9日	20名
第 7 回	河村 進 (四国がんセンター形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年 6月23日	23名
第 8 回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年 12月8日	23名
第 9 回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成14年 6月8日	27名
第10回	河村 進 (四国がんセンター形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成14年 12月14日	27名
第11回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成15年 6月28日	25名
第12回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成15年 12月13日	25名
第13回	河村 進 (四国がんセンター形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年 6月26日	26名
第14回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年 12月4日	

第14回 愛媛形成外科研修会

研修会

1. 受付は当日 16 時 30 分より会場で行います。車でお越しの方は、会場受付で無料駐車券をお配りします。
2. 参加費は1,000円を申し受けます。
3. 演者で、まだ研修会会員でない先生は、入会の手続きをお取りください。
4. 口演と討論時間は、一題あたり 5 分（口演 3 分：討論 2 分）を予定しております。（時間厳守でお願いします）
5. 発表形式はWindows Power PointによるPCプレゼンテーションでお願い致します（当日はCD、USBメモリーにてご持参下さい。）
6. 症例検討では、スライド、レントゲンフィルム、白板が使えます。

研修会総会

18 時 05 分から会場で行います。

特別講演

18 時 15 分～

「記憶に残る症例」

愛媛大学医学部 手術部 助教授 大塚 壽 先生

連絡先

〒790-0024

松山市春日町83

愛媛県立中央病院 形成外科

小林 一夫

TEL 089-947-1111

FAX 089-943-4136

kobak@silver.plala.or.jp

研修会プログラム

SECTION I 1～3 (17:00～17:15)

座長 森戸 浩明先生

1. 個人情報保護法に対する対策 —Pマークの取得—

宮本形成外科 ○戸澤 麻美、宮本 義洋、
宮本 博子、岩垂 鈴香、
原 武

(3分)

2003年5月個人情報保護法が成立し、2005年4月から全面施行される。これにより、医療関係者が守秘義務によって患者の個人情報を守るという考え方から、患者自身が個人情報をコントロールするという考え方に変わってくる。当院では2005年4月までにプライバシーマーク（Pマーク）を取得することで個人情報保護法に対応しようと考えている。現在行っている取り組みについて報告する。

2. 腸骨採取後の疼痛について

松山市民病院 形成外科 ○森 秀樹、原田 雅奈
(3分)

29歳男性。平成14年8月、右眼窩底骨折に対して右腸骨外板の移植手術が行われた。約6ヶ月間の経過観察後に略治とされたが、平成16年8月、術後2年を経過しても改善しない腸骨採取部位の疼痛を主訴に来院された。まず内服治療を試みたが改善がみられないため、局所麻酔薬の外用とイオントフォーレーシスを行ったところ、疼痛の軽減がみられた。

3. Isolated Collagenoma (Coccygeal Pad) の1例

松山赤十字病院 形成外科、皮膚科 ○庄野 佳孝、南 満芳
(3分)

Isolated collagenoma (coccygeal pad) の1例を経験した。症例は15歳男児。小学生頃から尾骨部に隆起が出現してきた。CT、MRIでは腫瘍性病変を認めず、尾骨の屈曲偏位を認めた。若干の文献的考察を加えて報告する。

SECTION II 4 ~ 7 (17:15~17:40)

座長 中岡 啓喜先生

4. 爪母部上皮 Bowen 病の1例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科診療班

○永松 将吾、大塚 壽、

中岡 啓喜、向井 知子、

青木 恵美、松本由美子、

光野 乃祐

佐伯皮膚科形成外科

佐伯 典道

(3分)

53歳、男性。右中指の爪母部上皮の辺縁不整な黒色斑(4×4mm)に対し、悪性腫瘍を疑い辺縁より3mm離して切除生検した。皮膚欠損は8×10mmであったが、open treatmentでの治癒を図った。治療法について考察する。

5. 筋肉内ガングリオンの一例

愛媛労災病院形成外科 ○黒住 望、徳井 琢

(3分)

ガングリオンはその70—80%が手部に発生すると言われている。筋肉内ガングリオンは1952年にBrooksによりはじめて報告され、本邦では40例程度の報告がみられるが比較的稀な疾患と考えられる。今回、長腓骨筋に発生した筋肉内ガングリオンと思われる1症例を経験したので若干の文献的考察を加え報告したい。

6. 診断に苦慮した足趾扁平上皮癌の1例 —第2報—

独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 形成外科 ○河村 進、前場 崇宏

(3分)

80歳女性、2002年11月頃、右第I趾の疣贅？が出現。自己処置を行ったが、潰瘍化したため近医受診した。軟膏処置を続けるも徐々に悪化するため当科紹介となった。診断に苦慮したため、追加治療も遅れ、全身転移で2004年10月6日に死亡した。反省を含めて報告する。

7. 下口唇癌切除後の再建例

済生会今治病院 形成外科

○手塚 敬

愛媛大学医学部附属病院 形成外科診療班

大塚 壽

(3分)

77歳男性。15年12月より気付き、増大した下口唇の腫瘍。16年6月、扁平上皮癌と診断の後、松山赤十字病院から紹介された。7月に全麻下に手術を行った。術中迅速病理検査にて腫瘍切除範囲を決定、下口唇は右側の一部を残し、左側口角までを含んで大部分が切除された。両側からfan shaped flapに準じた再建を行った。

SECTION III 8～10 (17:40～18:00)

座長 河村 進先生

8. 腹部大動脈瘤術後に生じた腹壁壊死の1例

愛媛大学医学部附属病院 形成外科診療班 ○青木 恵美、大塚 壽、
中岡 啓喜、永松 将吾、
向井 知子、松本由美子、
光野 乃祐

(3分)

85歳、男性。腹部大動脈瘤破裂にて人工血管置換術を受けた。Abdominal compartment syndrome予防のため、術後6日目に二期的閉腹を行われた。一部で緊張が強かったため、腹膜を閉鎖できず減張縫合のみ行われ、徐々に縫合部が虚血性壊死に陥った。諸先生方のご意見をうかがいたく、症例を供覧する。

9. 両側殿筋動脈穿通皮弁で再建した 仙骨部放射線潰瘍の一例

沖縄県立那覇病院形成外科 ○新城 憲 (あらしろ けん)

(4分)

症例は79歳、女性。30年前に子宮癌術後の放射線治療の既往有り。大腿骨頸部骨折術後、仙骨部に骨壊死を伴う大きな難治性潰瘍を形成。52回の高圧酸素療法後に、両側殿筋動脈穿通皮弁により再建し、術後2年を経過して再発を認めていない。晩期放射線障害としての骨壊死を伴う難治性潰瘍の治療手段として、高圧酸素療法+穿通枝皮弁による再建は、より確実な創治癒を得る上で有用である。

10. 46歳で上下顎骨切りを施行した顎変形症

愛媛県立中央病院形成外科 ○小林 一夫、浜田 裕一、

徳永 和代

(3分)

成長期より顎前突症があったが、仕事などの都合で治療をする機会を失っていた。このたび、強い本人の希望で、14mmの移動量に対して、上顎を5mm前方に下顎を9mm後退させる計画をたてた。

- 1) 歯牙の多くが欠損し、術中処置や術後の固定の危惧
- 2) 上顎や下顎骨の強さ
- 3) 手術の浸襲

などを心配したが、問題なく経過した症例を供覧する。

愛媛形成医会総会（18：05－18：15）

特別講演（18:15～19:30）

座長 小林 一夫先生

愛媛大学医学部 手術部 助教授 大塚 壽先生

ご略歴

1968年 3月 横浜市立大学医学部卒業

1975年 4月 北里大学講師（形成外科）

1981年 7月 愛媛大学医学部附属病院講師（皮膚科、形成外科診療班）

1983年 2月 同 医学部助教授

1992年 5月 附属病院手術部助教授、現在に至る

「記憶に残る症例」

記憶に残る症例を通して、

- 1) 時代／術式の変遷
- 2) 論文秘話
- 3) 愛媛からの発信

などについて述べる。